

がん治療による重篤な有害事象の発症に関わる遺伝子多型の研究

1. 研究の対象

国立がん研究センター中央病院において「がんの易罹患性に関わる SNPs 等遺伝子多型の同定とその臨床応用を目指す研究」、および、国立がん研究センター新・旧包括同意に同意された患者さんを対象とし、重い副作用が起こった方と起こらなかった方の、遺伝的な違いの有無を検討します。

2. 研究目的・方法

放射線治療、化学療法は悪性腫瘍に対する治療の基本戦略となっています。これらの治療は副作用を伴い、命に関わる、治療方法の変更を余儀なくされるなど、診療上の重大な問題となる場合も少なくありません。一部の副作用の発生頻度が人種により異なることが明らかとなっており、治療を受ける患者さんの遺伝子の多様性に左右される可能性があります。本研究では、がん治療（薬物療法、放射線治療等）による重い副作用の発症に関わる遺伝子の特性を検討します。重篤な副作用の発生を予測する技術を確立することは、より安全ながん治療を提供する上で大きな意義を持つと考えられます。対象患者さんの治療内容、有害事象の程度等の診療情報を診療録から調査します。また、既に得られている検体から遺伝子変異等の検査を行います。これらの情報収集や検査は、個人を特定できない状態で行われます。

研究期間：2013年03月26日～2027年03月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：既に採取された血液等を利用します。

情報：病歴、治療歴、研究登録番号、カルテ番号等を利用します。

4. 外部への試料・情報の提供

試料・情報の公表は、集計されたデータ等のかたちで医学論文として発表予定です。

5. 研究組織

研究代表者

国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科 医長 堀之内 秀仁

研究事務局

国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科 医長 堀之内 秀仁

共同研究者

国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科 科長 大江 裕一郎
修練医 守田 亮

国立がん研究センター研究所	遺伝子医学研究分野	分野長	吉田 輝彦
		ユニット長	坂本 裕美
国立がん研究センター研究所	ゲノム生物学研究分野	分野長	河野 隆志
		研究員	白石 航也
国立がん研究センター研究所	分子薬理研究分野	分野長	濱田 哲暢
		研究員	柳下 薫寛
都立駒込病院	化学療法科	医長	下山 達
都立駒込病院	臨床検査科		小泉 史明
慶應義塾大学	薬学部化学療法学講座	教授	杉本 芳一
株式会社 LSI メディエンス			橋本 勉
			鈴木 玄樹
			嶋田 有紀子
研究協力者			
国立がん研究センター中央病院	呼吸器内科	医長	山本 昇
国立がん研究センター中央病院	呼吸器内科	医長	藤原 豊
国立がん研究センター中央病院	呼吸器内科	医員	神田 慎太郎
国立がん研究センター中央病院	呼吸器内科	医員	後藤 悌

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科 堀之内秀仁(研究責任者)

Fax 03-3545-3567/ Tel 03-3542-2511(代表)